

野生鳥獣の病原体保有状況調査の結果について

平成 23～25 年度厚生労働科学研究「野生鳥獣由来食肉の安全性確保に関する研究（研究代表者：高井伸二）」において実施された野生鳥獣の病原体保有状況調査について、主要な結果は以下のとおりであった。

【イノシシ及びシカ】

1. 細菌

- ・ イノシシ及びシカ計 295 検体の糞便を検査したところ、サルモネラは中国地方のシカ、九州地方のイノシシでそれぞれ 1 例陽性となった。赤痢菌、カンピロバクターについては検出されなかった。
- ・ 抗病原大腸菌 O 群型血清による凝集試験で陽性が認められた菌株に対して PCR を実施したところ、VT 遺伝子陽性の病原性大腸菌が 3.6% 検出された。
- ・ イノシシ 52 頭の 23%、シカ 61 頭の 3% の腎臓からレプトスピラ遺伝子を検出した。

2. 寄生虫

- ・ 糞便からの寄生虫卵の検出率は 11～100% と高率で、鞭虫卵、回虫卵、鉤虫卵等が見られた。
- ・ 病理検索でも寄生虫感染に起因する病変が多く見られた。全身の筋肉内に住肉胞子虫、肺気管支内に線虫、肝臓から肝蛭を検出。寄生虫体が認められない場合も、好酸球浸潤を伴う炎症性病変が主であった。

3. E 型肝炎ウイルス

(ELISA による抗体保有調査及び遺伝子検出)

- ・ 近畿地方のイノシシ 71 頭は全て抗体陰性であった。中国地方のイノシシ 113 頭の 42% で抗体陽性となり、4% から遺伝子が検出された。検出されたウイルス遺伝子は、2011 年の人の患者から検出された遺伝子と非常に似ていた。

(上記とは別の抗原を使用した ELISA による抗体保有調査及び遺伝子検出)

- ・ 関東地方のイノシシ 152 頭の 8%、中国地方のイノシシ 76 頭の 30%、九州地方のイノシシ 46 頭の 22% で抗体陽性となった。
- ・ 中国地方のイノシシ 167 頭の血清から 3.6% から遺伝子が検出されたが、九州地方や関東地方の検体からは検出されなかった。
- ・ 中国地方のシカ 201 頭の血清から 0.5% が遺伝子陽性となった。
- ・ イノシシ及びシカから検出された遺伝子はいずれもヒトの患者から検出された遺伝子に類似していた。

【野生鳥類】

- ・ 北海道内で狩猟された野生カモ類 7 種 58 羽、インターネットによる食用販売を通じてカモ類 3 種 41 羽を対象に検査を実施した。
- ・ カンピロバクター陽性は、狩猟鳥で 1.7%、市販鳥で 7.3% であった。
- ・ サルモネラは、全て陰性であった。
- ・ トキソプラズマ原虫は、狩猟鳥は陰性、市販鳥の 10.5% で陽性であった。